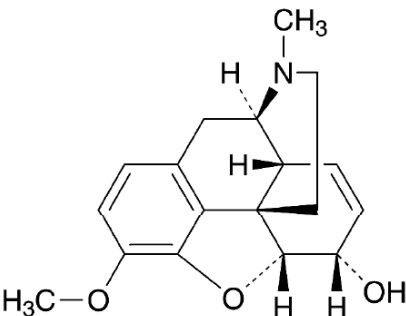
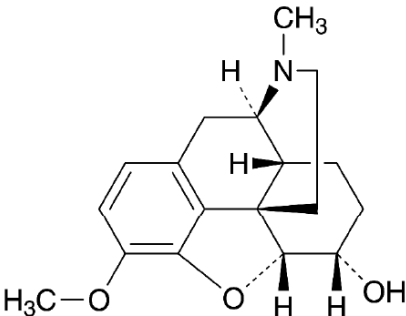
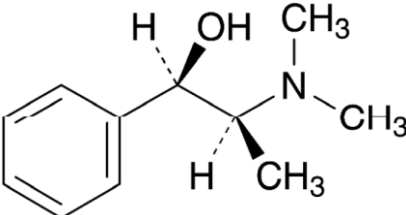
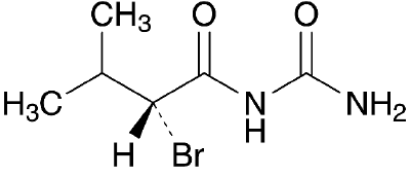


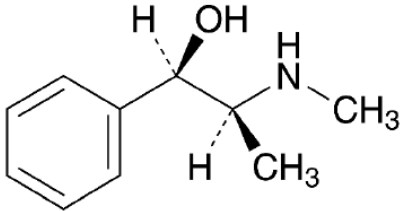
成分名		コデイン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		鎮咳去痰薬
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静 ○疼痛時における鎮痛 ○激しい下痢症状の改善
	薬効・薬理	本剤は化学構造上モルヒネと極めてよく似ているが、その作用はモルヒネよりはるかに緩和で、鎮痛作用はモルヒネの約 1/6、精神機能鎮静作用は約 1/4、睡眠作用も約 1/4 程度とされている。これらに比較して咳嗽中枢に対する抑制作用が強く、主として鎮咳の目的に使用される。
	依存性に係る記載	重要な基本的注意： 連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。 重大な副作用： 依存性（頻度不明）：連用により生じることがある。 （略）

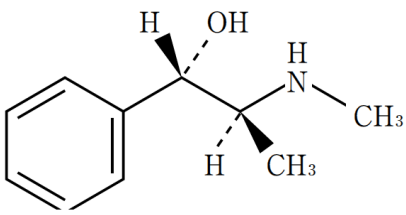
成分名		ジヒドロコデイン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		かぜ薬、鎮咳去痰薬
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静 ○疼痛時における鎮痛 ○激しい下痢症状の改善
	薬効・薬理	本剤は呼吸中枢を抑制し、また、反射作用によって起こる呼吸運動に対しても抑制作用があり、コデインより強い鎮咳作用をあらわす。また、モルヒネより弱い、コデインより強い鎮痛作用を有している。 本剤の呼吸抑制作用はコデイン同様モルヒネより弱い。
	依存性に係る記載	重要な基本的注意： 連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。 重大な副作用： 依存性（頻度不明）：連用により生じることがある。 （略）

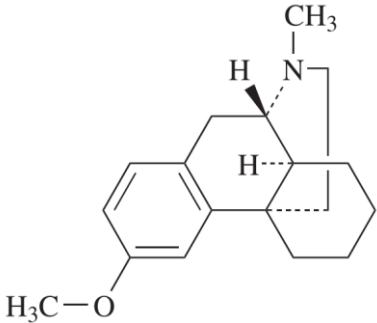
成分名	メチルエフェドリン	
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群	かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬	
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○下記疾患に伴う咳嗽 気管支喘息、感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺結核、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル） ○蕁麻疹、湿疹
	薬効・薬理	交感神経興奮様薬物。α 及び β 受容体を刺激するが、作用の一部は交感神経終末からのノルアドレナリン遊離を介する間接的なものである。 1. 気管支拡張作用 ヒスタミン吸入によるモルモット実験的喘息に対する喘息防止作用（ED50）は経口投与 45mg/kg、皮下投与 28mg/kg である。50mg/kg 経口投与により作用は3時間持続する。 2. 鎮咳作用 亜硫酸ガス吸入によるモルモット実験咳に対する鎮咳作用（ED50）は皮下投与 24mg/kg で、エフェドリンの 0.7 倍、コデインの 0.6 倍である。また、機械的刺激に対しては腹腔内投与 35.2mg/kg で、コデインの 0.4 倍である。 3. 抗アレルギー作用 ヒスタミン皮内投与によるヒトの膨疹及び発赤に対し、1mg 皮内投与によりジフェンヒドラミンと同程度に抑制する。
	依存性に係る記載	なし

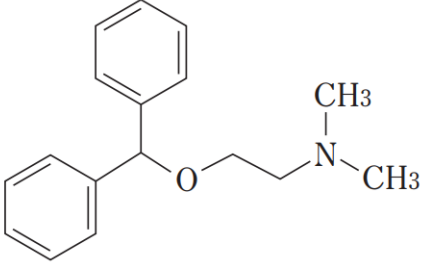
成分名		ブロモバレリル尿素
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		解熱鎮痛薬、鎮うん薬、催眠鎮静薬
医療用医薬品*添付文書における記載	効能・効果	不眠症、不安緊張状態の鎮静
	薬効・薬理	体内で Br ⁻ を遊離し、神経細胞の興奮性を抑制することにより、鎮静、催眠作用を現す。
	依存性に係る記載	重要な基本的注意： 連用により薬物依存を生じることがあるので、漫然とした継続投与による長期使用を避けること。本剤の投与を継続する場合には、治療上の必要性を十分に検討すること。 重大な副作用： 依存性（頻度不明） 連用により薬物依存を生じることがあるので観察を十分に行い、用量及び使用期間に注意し慎重に投与すること。また、連用中の投与量の急激な減少ないし投与の中止により、まれに痙攣発作、ときにせん妄、振戦、不安等の離脱症状があらわれることがあるので投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。

*現在は販売中止

成分名		エフェドリン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		外用痔疾患用薬
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○下記疾患に伴う咳嗽 気管支喘息、感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺結核、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル） ○蕁麻疹、湿疹
	薬効・薬理	1. 気管支拡張作用 エフェドリンは、気管支筋に対して緩解作用を有し、気管支を拡張する。その作用はアドレナリンに比べ弱い、持続的である。 2. 鎮咳作用 亜硫酸ガス吸入によるモルモットの刺激発咳に対し、エフェドリン塩酸塩の鎮咳作用（ED50）は、モルヒネ塩酸塩水和物の0.35倍、コデインリン酸塩水和物の0.85倍であった。 3. 血管収縮作用 中枢神経興奮による血管収縮作用により鼻粘膜の充血を緩和する。
覚せい剤原料としての規制等		覚せい剤取締法により、覚せい剤原料として所持、製造、譲渡等が禁止されている（10%以下を含有する物を除く）。

成分名		プソイドエフェドリン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		鼻炎用内服薬、かぜ薬
文書 医療用 医薬品 添付 記載	効能・効果	※配合剤としての効能・効果 アレルギー性鼻炎
	薬効・薬理	α 受容体を刺激し、鼻粘膜の血管平滑筋を収縮させ、血流を減少させることにより、鼻粘膜の充血や腫脹を軽減し、強い鼻閉改善効果を示す。
覚せい剤原料としての規制等		覚せい剤取締法により、覚せい剤原料として所持、製造、譲渡等が禁止されている（１０％以下を含有する物を除く）。

成分名		デキストロメトルファン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		かぜ薬、鎮咳去痰薬
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○下記疾患に伴う咳嗽 感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺炎、肺結核、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル） ○気管支造影術および気管支鏡検査時の咳嗽
	薬効・薬理	延髄にある咳中枢に直接作用し、咳反射を抑制することにより鎮咳作用を示す。
	依存性に係る記載	なし

成分名		ジフェンヒドラミン
構造式		
配合されている一般用医薬品の主な薬効群		鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬、みずむし・たむし用薬、皮膚軟化薬（吸出しを含む）、催眠鎮静薬、抗ヒスタミン薬主薬製剤（抗アレルギー用薬）
医療用医薬品添付文書における記載	効能・効果	○じん麻疹 ○皮膚疾患に伴う癢痒（湿疹・皮膚炎） ○枯草熱 ○アレルギー性鼻炎 ○血管運動性鼻炎 ○急性鼻炎 ○春季カタルに伴う癢痒
	薬効・薬理	ヒスタミン H1 受容体を遮断することにより、H1 受容体を介するヒスタミンによるアレルギー性反応（毛細血管の拡張と透過性亢進、知覚神経終末刺激によるそう痒等）を抑制する。
	依存性に係る記載	なし